



低層集合住宅用
複式メータボックス

樹脂製 クワトロ
Quattro

樹脂製による軽量化
重量約1/3

※当社鋳鉄製比
メータボックスを全て樹脂製にした為、大幅な軽量化が実現でき、
持ち運びなどが行いやすくなりました。

掘削作業を

45%削減!

※当社調べ(4連の場合)

メータボックスの集約により、掘削作業の軽減と、施工時間の
短縮化が可能です。

メータボックス
水平出し時間を

50%低減!

※当社調べ(4連の場合)

メータボックスの集約により、水平出し時間が半減します。

仕上げ(埋め戻し・タイル割り)
作業時間を

50%低減!

※当社調べ(4連の場合)

メータボックスの集約により、埋め戻し時間が半減します。

1つのメータボックスに
最大4つの量水器が設置可能!



自由に動く
可とう継手!

最大可とう角
±8°(計16°)

クワトロ の2次側には…

ムーブジョイント
ビニル管用可とう継手



- 地震で揺れても
安心!!
耐震化製品!
- 可とう機能付きで
自由に!!
施工性向上!
- ビニル管に
直接接合!!
ソケット不要!

流体をコントロールするのが仕事です。 
TABUCHI



配管システムで暮らしを支えるタブチは、確かな技術で新たなフィールドに挑戦します。

流体をコントロールするのが仕事です。

株式会社 タブチ

<本社 / 工場> 〒547-0023 大阪市平野区瓜破南 2-1
TEL 06-6708-0150 (㈹) FAX 06-6708-0210

ISO14001
認証
JISQEM1811

本社・工場

ISO9001
認証
JISQ-2658

本社・工場

商品のお問合せは
い い み づ

0120-481-130

<支店 / 営業所> 札幌・盛岡・仙台・高崎・新潟・千葉・土浦・さいたま・多摩
東京・横浜・静岡・金沢・名古屋・京都・大阪・神戸・岡山・広島・福岡・鹿児島・沖縄

 WEB カタログ
TABUCHI WEB CATALOG

はホームページから!
タブチ

ホームページはこちら▶



TABUCHI

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

株式会社 タブチは持続可能な開発目標(SDGs)を達成しています。

AQUA BOOK Vol.5

2020
SEASON.
3



世界的な感染拡大が続く

2019年12月に中国武漢市で最初の集団感染が報じられて以来、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行しており、世界保健機関（WHO）によると10月1日現在で3384万2281人の感染者と101万634人の死者が発生しています。日本では感染者数が減少に転じたことなどから5月末に緊急事態宣言が解除されましたが、7月頃から感染者数が急激に増加するなど、予断の許さない状況が続いている。本稿では、水道分野における新型コロナウイルス感染症に関する動向をレポートします。

水と衛生分野の最新知見

WHOおよび国際連合児童基金（UNICEF）は3月19日、新型コロナウイルスに関する飲料水、废水、衛生行動、廃棄物管理暫定ガイドラインを公開し、4月23日に更新しています。国立保健医療科学院が全文の日本語訳を作成し、同院のホームページで公開しています。これは新型コロナウイルス感染症の防止と制御における水衛生関連の最新情報を提供するものであり、現段階でこれ以上の新たな知見はないそうです。同暫定ガイドラインの概要是以下の通りです。

未処理の飲料水に新型コロナウイルスが存在する可能性は否定で

水道水の安定供給に奔走

また、東京大学大学院の片山浩之教授は「水道については他のウイルスの方が処理しにくく、それらのウイルスに対応できるシステムを構築しているため、新型コロナウイルスに対して心配することはない」としています。

つまり、安全な水道水を當時安定して供給することは、新型コロナウイルスの感染防止に貢献していることになります。このため、全国の水道事業体では、水道水の安定供給を担う水づくりの現場を維持するため、必死の努力を続けています。

日本水道新聞社では、直営で運転管理等を行っている横浜市水道局の西谷浄水場、官民連携で運転管理等を行っている広島県企業局の坊士



写真2 オペレーターと別業務に携わる従業員は、別棟に設けたスペースで作業に従事（提供：株式会社みらい広島）

浄水場（指定管理者）（株式会社みらい広島）の電話取材に加え、都道府県庁所在地や中核都市、府県営の用水供給事業体など73事業体に対しても、4月の緊急事態宣言を受けた基幹浄水場の対応に関する緊急アンケートを実施。61事業体から回答を得ました（回答率83.6%）。

アンケートの回答からは、「水づくりを担う運転管理員（オペレーター）の人員・体制を確保することを優先として、感染者が発生した際の影響を最小限とするために人員を固定した班を設けた上で、運転管理員とそれ以外の職員との執務スペースの区分・分散化（写真1）、行動範囲や動線の分散化（写真2）、管理室等への入室制限などの措置を講じていることがわかりました。また、過去に運転管理を経験

被災地復興と 感染拡大防止の両立が

秋以降の第3波の発生が懸念されている新型コロナウイルス感染症。近年は毎年のように豪雨や地震など

の災害が発生しており、そのためには、水道施設も被害を受けています。この灾害の際に日本水道協会を中心とする全国のネットワークにより、水道界が丸となって対応していく必要があります。新型コロナウイルス感染症の脅威が収まらない中で、災害が発生すれば、被災地の復興と感染症拡大防止の両立という前例のない対応が求められます。各地での感染の抑制に努めつつ、「新たな日常」の中における非常時の支援体制の検討が求められるのではないでしょうか。

The background of the page features a blue-toned electron micrograph of COVID-19 virus particles. Overlaid on this are large, bold white text elements. At the top right, it says "COVID-19". Below that, in a large serif font, is "新型コロナウイルスと上下水道". To the right of this main title, in a smaller font, is "Vol.1 (株)日本水道新聞社". The overall design has a professional, news-oriented feel.

新型コロナウイルスはエンベロープ（外套）に包まれているため、水系感染性のある既知のノンエンベロープのヒト腸管系ウイルス（アデノウイルス、ノロウイルス、ロタウイルス、A型肝炎ウイルスなど）と比較して、環境中の安定性が低い。過と消毒を利用する従来の集中型净水処理方法で新型コロナウイルスは不活性化される。他のヒトコロナウイルスは、塩素処理および紫外線(UV)照射による消毒の感受性が高い（不活性化やすい）ことが示されている。効果的な集中型消毒には、少なくとも30分間塩素接触後に、遊離塩素の残留濃度を0.5mg/L以上、pHを8.0未満にする必要がある。残留塩素は、配水システム全体で維持される必要がある。

頻繁で正しい手指消毒は、新型コロナウイルスへの感染を防ぐための最も重要な手段の一つである。新型コロナウイルスの蔓延を減らすためには、家庭や地域社会で推奨される水、衛生設備、医療廃棄物に関する業務を守ることが重要である。水の供給により、定期的な手指消毒と洗浄が可能になる。





写真4 食堂をリノベーションしたサロン(同)



写真5 夜空と交差する森の映画祭(同)

給排水工事などインフラ部分の改修工事、同社が施設の改修を担当しました。可能な限り費用を抑えため、専門的な工事以外はできる限り自分たちで実施。ベッド数を確保するため、公園内に定員2名のテント4張（2020年9月現在は8張）**写真1**を設置したほか、定員8名の宿泊棟4棟**写真2・3**、食堂をリノベーションしたサロン**写真4**、キャンプファイヤー場などを整備、泊まれる公園「INN THE PARK」がオープンしました。評判は上々で、週末などの予約はほとんど埋まっているそうです。

オープン後は、同社が市に施設とテントエリアの面積に対し設使用料を支払い、施設以外の公園の管理は従来通り市が行っています。ただ、市と同社は基本協定を締結し、年間の土日祝日の2分の1は市の許可を得て、同社が優先的に公園を利用できることになっており、一晩公園を貸し切りにした映画祭**写真5**、結婚式、アート・プロダクト・音楽・フードが行き交う静岡発のマーケットイベント「YES GOOD MARKET」**写真6**、地元団体が主催する大規模なオーガニックフェスなどを行っています。

名高速道路のインター「エンジニアリング」にて、同社が行政との間に立つことで円滑にコミュニケーションをとることで安心感の醸成につながり、同社にとっても公園でのイベントを

名高速道路のインター「エンジニアリング」にて、同社が行政との間に立つことで円滑にコミュニケーションをとることで安心感の醸成につながり、同社にとっても公園でのイベントを

公共施設利活用の最前線

～泊まれる公園「INN THE PARK」～

取材協力：公共R不動産

公・民のニーズをマッチング
高度経済成長期に建設された公共施設の老朽化が進み、遊休化している施設は更新か廃止かの決断を迫られる時期を迎えつつあるのと同時に、公共施設を利活用するニーズが高まりつつあります。しかし、公共施設を利活用した事例はまだ多くなく、行政としては具体的なプロセスがわからない一方、民間側もどういった手続きを踏んで活用できるのかがわからず、そもそも遊休化した公共施設の情報にアクセスすることが困難でした。こうした行政と民間のマッチングを進めるためのメディア「公共R不動産（株式会社オーパン・エー）」が2015年からさまざまな情報発信を行っています。今回は同社がプランニングから運営まで携わった事例を通じて、公共施設の利活用の現状に迫りたいと思います。

自ら事業者として参画

沼津市立少年自然の家は市営の宿泊施設で、60・14haの面積を有する愛鷹運動公園内にあります。毎年数千万円の赤字を計上しており、2017年3月末に廃止し、同年4月から公園内の施設として活用することになりました。しかし、東名、新東



写真6 公園中央に大きなデッキが出現(同)

名高速道路のインター「エンジニアリング」にて、同社が行政との間に立つことで円滑にコミュニケーションをとることで安心感の醸成につながり、同社にとっても公園でのイベントを

名高速道路のインナー「エンジニアリング」にて、同社が行政との間に立つことで円滑にコミュニケーションをとることで安心感の醸成につながり、同社にとっても公園でのイベントを

公民がパートナーとして

開催することで宿泊施設の集客につながっています。正に三方良しの仕組みと言えます。

指定管理ではなく、公園施設の設置・管理許可としたこともポイントの一つです。指定管理であれば民間企業は決められた指定管理料の中で事業を行いますが、それには市の支出が発生しますし、指定管理料以上のサービスが生まれることもあります。一方、同社は市に対して月に7万円程度の施設使用料を支払っています。微々たる金額に見えるかもしれません

が、年間数千万の赤字が解消する同時に、公園内でいろいろな経済活動が行われることで、よりコンテンツが充実した公園に生まれ変わった結果、多くの人が公園に訪れていることを考慮すると、市にとどても計り知れない効果があるのではないかでしょう。

こうした契約形態を採用するとともに、行政と民間企業が主従の関係ではなく、対等のパートナーとして歩むことで、行政だけでも民間だけでもできない、特色のある事業が実現できています。

公園も活用して多種多様なイベント

う話を盛り上がり、「泊まる公園」をコンセプトに提案したところ事業者に選定され、2016年9月には事業の実施主体として株式会社インザパークを立ち上げ、運営をスタートしました。



写真1 森の中で幻想的な光を放つテント(提供:株式会社インザパーク)



写真2 少年自然の家の宿泊棟(同)



写真3 現在の宿泊棟(同)



飛び出す映像だけじゃない

現在、VR(Virtual Reality／仮想現実)は、さまざま業界で活用されています。テーマパークのアトラクションでも導入される等、大きな注目を集めています。

VRとは、CGムービー(映画などで使用されるCG)の一つです。

VRを用いることによって、仮想の世界をまるで現実かのように体験することができます。大きな特徴の一つは、映像の中の視点を変えることができる点です。

VR活用し リアルな非現実をつくる

取材協力: 株式会社フォーラムエイト



図1 運転席からの視点

VR上での自動車の走行は、自動車の自動運転の実験で活用されています。自動運転のシステムとシミュレーションソフトをつなげることで、VR空間内において現実と同様の道路を運転させどのような場所でエラーが発生しやすいかなどを調べることができます。

開発中のシステムを現実世界で実験すれば、事故につながる可能性が高いですが、VRを用いることで安全に、かつ実際に近い状況で実験を行うことが可能です。



図2 水の流れ込み方が見える

危機感を高めるツールにも

震災対策としては、避難シミュレーション、津波シミュレーション等があります。

避難シミュレーションでは、群集解析^{※1}を用いて、建物内等において非常時に人々がどのように避難する可能性が高いのかをシミュレーションでき、人が集まりやすいルートなどをあらかじめ認識しておくことで、迅速な避難誘導が可能になります。

津波シミュレーションでは、実際の町を再現した映像に、津波が発生した際の仮想世界を重ね合わせます。自分たちが生活している町がどう

のように浸水していくのかを視覚的に捉え、津波に対する危機感を高めることができます(図2)。

このように、震災対策にVRを用いる場合重要なのは、VR映像を作ることではなく、「VRを用いて訓練すること」です。わかりやすく情報を伝え、住民の防災意識向上になげていくことが重要です。

また、道路上だけではなく道路下に敷設されている水道管、下水管等もVRで確認できます(図3)。さまざまな情報を持つVR空間に集約することで、多角的な検討が可能になります。

トが普及する以前は、経験の豊富な担当者や専門家の経験則に頼らざるを得ませんでした。多くの人がわかりやすく、正確な情報を得るために、VRなどの最先端技術の活用は非常に効果的だと考えられます。

また、国土交通省がBIM/CIM^{※2}の取組みを推進していることから考えても、今後VRなどの最新技術の活用はさらに進んでいくでしょう。

*1 常時・非常時に大勢の人々(群集)がどのような経路を通つてどのように行動するかについて行う解析。特に非常時に、避難中の人々がどの複雑な行動を一人ひとりについて解析し、人と人、人と構造物、人と火災などの相互作用を考慮しながら解析・シミュレーションを行ふ。

*2 BIM/CIM (Building/Construction Information Modeling, Management)。調査、設計段階から3次元モデルを導入し、施工、維持管理の各段階において、属性情報、材料、強度等を付与しながら連の建設生産・管理システムにおいて活用すること。品質確保と共に、生産性向上を目的としている。

国交省HP https://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08_h-000661.html

運転をシミュレーション

VRを用いることで、さまざまなシミュレーションを行うことができます。

鉄道に関するものには、研究開発用、運転士・車掌の教育・訓練用、運転体験などの広報展示用として、鉄道シミュレータがあります(写真1)。そのうち、教育・訓練を目的としたシミュレータは、運転室と車掌室を模した2台のシミュレータから構成され、個別の訓練と、それぞれのシミュレータを連動させた連携訓練が可能です。さらに、運転に臨場感を与えるために、音響、加減

速の体感を与える動揺装置が設置されています。また、シナリオ自由度の高いVR映像と、リアリティに優れたビデオ映像とを用途に応じて使い分けることも可能です。訓練では、さまざまな環境や異常事態・事故、故障)を設定することができます。架空の路線での運転や、悪天候(雨や雪)での運転、自動車や動物などの急な飛び出しへの対応なども再現できます。さらに、衝突、脱線、横転の状況も設定でき、現実世界で訓練することは難しい緊急時の対応を学ぶことが可能です。

また、VRを用いれば、実際の町を再現した映像の中で自動車の運転を学ぶことが可能になります。



写真1 鉄道シミュレータ



雨との新しい付き合い方

～雨水活用のススメ～

洪水・渇水被害の教訓を基に

雨は町をうるおし、緑を育んでくれる空からの贈り物です。しかし近年の気候変動に伴う集中豪雨により洪水や河川の氾濫が発生したり、雨が降ないと渴水を引き起こす原因にもなったり、私たちの暮らしを直撃することもあります。東京都墨田区では、「NPO法人雨水市民の会」が中心となり、「雨」と「人」との新しい付き合い方を提案しています。

墨田区は西の区境を隅田川、東の区境を荒川および旧中川に挟まれた町です。区のほとんどが、海拔零メートル地帯であることに加え、アスファルトやコンクリートで覆われた町で、1970年代には雨が下水道の能力以上に降つてしまふと都市型洪水が頻発していました。その一方で、1964年の東京開港も経験していました。

その解決策の一として始まつたのが、降雨を施設や住宅で蓄え、ゆっくりと流す「雨水活用」の取組みです。墨田区では、1983年以降に新設する区の施設には原則として雨水利用施設を導入するとともに、一定規模以上の民間の開発行為に対し、要綱に基づき雨水の利用と浸透を指導しています。1995年には雨水タンクを設置する費用の一部を助成する制度も設けています。雨水市民の会は、墨田区の活動と歩みを合わせつつ、雨水を活かすことが当たり前になる社会を目指し、雨水利用の普及・啓発・雨の環境学習、国内外の雨水活動支援などの活動を推進しています。

雨水市民の会の協力を得て、町中に設けられた小規模な雨水タンクを取材しました。



写真4 横から見た「富士」。雨どいから雨水を取水、手動ポンプによりネット上部から植物に水を供給する

A photograph of a modern, single-story building with a flat roof and a light-colored facade. The entrance is covered by a glass door. In the background, the Tokyo Skytree is visible against a clear blue sky.

写真3 「路地尊(ろじそん)」を備えた集会所。地下の貯留槽に集めた雨を手押しポンプで汲み上げる

(写真1)、また下水汚泥再利用のタイルが用いられ、路地尊が設置された広場には、路地と路地が出会う、エコとレトロな景観を掛け合って「会古路地(エコロジ)」(写真2)などなど。思わず由来を知りたくなるような名前が付けられています。ほとんどは雨水市民の会の前会長が命名したものだそう。雨水活用を身近な存在とするための工夫が垣間見えます。

「雨水活用」の 意識向上のために

所（写真3）など、地域に雨水活用が根付いていることが伺えます。

しかし、近年は上下水道が整備され、大規模な渴水や都市型洪水は発生しなくなりつつあります。災害を経験した世代には精力的に活動した人が多かったのですが、災害を経験していない世代の危機感が薄くなりつつあります。例えば、新設時に設置される大規模な雨水貯留槽の多くは地下にあるため、住民は目にする機会が

なく、「雨水活用」自体を知らない人もいます。また、雨水貯留槽やタンクの建設時には区による確認が行われますが、運用開始後には管理状態等を確認する仕組みがななく、非常にどの程度の洪水抑制効果があるかはブラックボックスになっています。

こうした課題を解決すべく、雨水市民の会では、「雨水活用」に関する住民の意識を高めるため、さまざまな活動を展開しています。

雨の日の新しい楽しみ方

例えば、プランター や水鉢などを使って、雨どいから雨水の一部を下水道に流れ込む手前で受け止めるスポット「雨のつぼ庭」は、町

一富嶽三十六景』シリーズになぞらえ、「すみだ・雨の三十六景」として発信、雨の日ならではの情景を楽しむスタイルを提案しています。

二雨水市民の会のこのような工夫が、地域の人たちの「雨水活用」へのさらなる意識啓発につながつていくのではないかでしょうか。

A photograph showing the side of a building with light-colored horizontal siding. A large portion of the wall is covered by a dense, green climbing plant, likely ivy, which is trained to grow along a black metal mesh. The plant has many heart-shaped leaves and some small flowers. To the right of the main building, there's a white vertical pipe and a grey corrugated pipe running down the wall. In the foreground, a dark wooden railing is visible. The sky is clear and blue. In the background, other buildings and trees are visible across a narrow street.

「富嶽三十六景」シリーズになぞらえ、「すみだ・雨の三十六景」として発信、雨の日ならではの情景を楽しむライフスタイルを提案しています。

取材協力
NPO法人
雨水市民の会

世界の 水道事情

インドネシアとの関わり

筆者とインドネシアとの関わりは足掛け15年になります。2005年に仕事で首都ジャカルタとパリを訪問調査したのがきっかけで、以来水道関連の調査やセミナー開催等の仕事で年に数回の訪問が現在まで続いています。この間、現地政府や現地水道協会(PERPAAM

写真1 バリ島の現地調査にて
(2005年、筆者撮影)

際協力で本邦エンサルタンツにより策定されたものであり、現在もその基本的考え方は踏襲されてい



写真2 地方部での共同水栓（2017年、筆者撮影）

首都移転

インドネシア政府は、2019年4月に首都をジャカルタから移転する計画を閣議決定し、その後、同年8月に首都を東カリマンタンに移転することを発表しました。移

今後の課題や展望

ジャカルタ水道の再公営化の期限が3年後(2023年)に迫っています。現地での実情はどうなっているのか、気になるところです。2015年時点では、2つの民営水道のN.R.W(無収水率)は40%程度



写真3 現地の分水栓(2017年、筆者撮影)

インドネシアならびに 同国水道事業の現状

同国水道事業の現状

葉の壁が高く随分苦労したことが、今となっては良き思い出として残っています。局長とは今でも交流が続いています。

インドネシアの國土は赤道にまたがる1万3466もの大小の島により構成され、東西5110kmにまたがり、また世界最多の島嶼を抱える國家（島国）です。気候は熱帯雨林気候で雨季と乾季に分かれます。日本のように四季はあります。しかし、島国です。



図1 インドネシアと日本の位置関係、人口・経済指標

特に、首都ジャカルタ水道公社(PAMJAYA)は、1997年に、東半分を英國テムズ・ウォーターハー社が8割、スハルトの長男の会社が2割出資の合弁会社と、西半分をフランスのスエズ社が4割、スハルトの親友が6割出資の合弁会社との間で、2003年まで25年間の2つのコンセッション契約を結んだことが発端となって民営水道が継続されています。

シヤカルタ水道の再公営化

反水道民営化シヤカルタ住民連合(KMMSA)は、2013年6月に1997年の水道民営化契約を無効にすることを求めて集団訴訟を起こしました。当初ジャカルタ高等裁判所は下級裁判所の判決を覆し、水道民営化の権利を再度認められる判決(2016年2月)を出していました。しかし、最終的には2017年10月に最高裁判所が申立支持を表明し、KMMSA側が勝利を収めました。2023年には、2つの既存民営水道はPAMJAYAにより再公営されることとなっています。

なお、ジャカルタの当初の水道計画(マスター・プラン)は、日本の国

な状態で、これから成長する国となるでしょう。興味を抱かれた方は、

なお筆者は2016年8月に発足した「インドネシアの水道プロジェクトを考える会（JISCOWA PINDO）」の事務局をさせていただいています。インドネシアにおける水道整備プロジェクトの案件形成およびそれに係る情報収集等を目的として、有志の個人により発足した任意団体です。興味のある方は、<http://jiscowapindo.jp/ofice010101.htm> おど、お気軽にアクセスいただければと思います。

参考文献・URL

<https://www.globalnote.jp/post-1339.html> ea/indonesia/data.html#section1
人間たる名前GODA 国別ハッシュタグ
推移(→マサニ)

インドネシア政府は、2019年4月に首都をジャカルタから移転

な緑豊かな土地となり、住宅おオフィスビル、居住地、商業地は整備され、定住人口の多くは公務が占めることになるそうです。

(筆者撮影)

宇都宮市管工事業協同組合

組合の認知度向上と信頼性の確保へ

“経営基盤確立しPR活動を継続”

——市組合の沿革、ご自身の関わりについてご紹介ください。

当組合は1953(昭和28)年に、宇都宮市の公認工事店10社で創立したのが始まりです。1959(昭和34)年からは市水道部(現在の上下水道局)内に組合事務所を間借りしていましたが、1967(昭和42)年に組合事務所を整備し、1998(平成10)年には指定工事店制度への移行に伴い、現在の組合名称に改称しました。

その間、1965(昭和40)年から資材の共同購入を開始し、ここ10年間の推移を見ても一定の販売実績を上げるまでになっています。

私が組合理事に就任したのは1995(平成7)年ですが、実は1993(平成5)年に設立された青年部の立ち上げから組合活動に関わってきました。ちょうど全国管工事業協同組合連合会(全管連)でも青年部組織ができる頃で、宇都宮でも組織ができないかと親会に働きかけ、同世代でつくったのです。まずは奉仕活動でも何でもしようと考え、局からの要請を受ける形で、取水場

近辺の鬼怒川河川敷を清掃するクリーン作戦活動から始めました。

青年部のおかげで、いろいろなネットワークができましたし、よく「組合に入つてメリットがあるのか」という話がありますが、そうでもないかな」と思っています。

私が理事長に就任してから心掛けたのは組合の露出をとにかく増やすことでした。料理の食べ切りを推進する「もったいない残しま10!」運動のぼり旗を掲示したり、SDGs人づくりプラットフォームに会員登録したり、「イメージアップを図る『愉快ロゴマーク』」のビンバッジを作成するといった宇都宮市の取組みに積極的に参画し、台風19号被害では義援金を寄付させていただきました。そうすると、いろいろな形で組合活動が取り上げられることになり、「管工事組合、隅に置けないなあ」と声を掛けられ、管工事業あるいは組合の認知度アップ、信頼性にもつながっていくと思っています。

他にも、市の学校業務職員さんが簡単な作業であれば自分で応急修理ができるよう、青年部を中心に水廻り研修会を取り組んでおり、今では学校業務職員さんが図面を見ることができるまでになっています。

こうしたPRの取組みを続けていくためにも安定した組合経営が必要ですから、先ほどお話をした資材の共同購入は最重要事業として取り組んでいるところです。

また、官民連携の推進が掲げられていますが、組合としても長年の課題となっています。2002(平成14)年には組合全額出資の「ライドック」という検針業務受託会社を立ち上げましたが、当初は検針業務のノウハウもなく、価格競争に直面して今でも厳しい状況となっています。これは、新たな自主事業であり、将来の官民連携を見据えた取組みでしたが、組合としてもさらに一生懸命勉強していくと同時に、技術・技能を継承できる組合組織について広く認めていただきたいと思っています。さらに、官公需適格組合の取得なども検討し、地元中小企業を支

——理事長に就任されての取組みは、意識・組合としての問題

はなく「組合で何ができるのか、入って良かった」ということをいろいろ熱く議論できたのが青年部でした。そうした素地もあって、今の親会員は青年部から上がってくる流れとなっています。



和田均氏

宇都宮市管工事業協同組合理事長
栃木県管工事業協同組合連合会会長
和田工業株式会社代表取締役



える意義について、地方公共団体に知つてほしいと願っています。

——技術・技能の継承に関しては、次世代の若者育成にもつながる工業高校への資材寄贈にも取り組まれています。

栃木県に要請して県立宇都宮工業高校に環境設備科を設立してもらいました。インターネット上に設立していました。インターネット上に設立しても、学校側に組合から呼びかけを10年ほど続けていたら、授業に組み入れたのでぜひ協力してほしいと、逆に学校側から求められるまでぐらは持たせてあげたいという話が持ち上がつたので、配管技能士の2・3級技能試験を受検する生徒の実習向けに、管材や管継手などの実習資材を寄贈することにしました。全管連からも寄贈していただき、知事から毎年感謝状をいたしています。

——先だって組合主催で防災訓練も実施され、防災意識の高さを感じました。

市上下水道局との災害協定は以前から結んでいたのですが、体制網の整備にとどまっていたことや、新潟県中越地震などその後の地震を

踏まえて見直しをする必要があり、2008(平成20)年に見直し協定を再締結しました。その協定に基づいて、2017(平成29)年に体制を見直して、本管整備と建物内外整備を1班として4班を編成し、加えて給水班も編成しました。当組合でもステンレス製給水タンクを整備しましたので、局の給水車とともに応急給水作業に当たれるようにしたのです。

一方、防災訓練は、三多摩管工事協同組合が実施した取組みを視察したのがきっかけでした。当組合でも組合主催で実施したいと思い、配水管の漏水修繕から凍結工法、給水栓の立ち上げまで、すべて実践形式でだけ大きなに行つたのは初めてです。しました。局幹部に来場いただき、参考集訓練から応急復旧訓練、応急給水訓練まで見ていただきましたが、これ特に感激したのは、青年部の方々が主体的に取り組んでくれたことです。「自分たちに任せてくれ」と言つて、段取りから当日の作業まで整然と実行してくれました。私どもが組合の今後の方向性について道筋を付けたとしても、それを具体化するのは将来を繼ぐ彼らですから、組合活動を盛り上げていくためにも大変期待しています。

初の組合主催防災訓練
心強い青年部の取組み

——本日はありがとうございました。

市上下水道局との災害協定は以前から結んでいたのですが、体制網の整備にとどまっていたことや、新潟県中越地震などその後の地震を

